

## 現状に満足した時が停滞の始まりである。 絶えざるイノベーションへの挑戦と自己革新こそが 企業と社会の未来を切り拓く。

### 従業員一人ひとりが 社会に貢献する思いを持っている

昨年3月の「東日本大震災」と原発事故の余波は、今なお、国民の生活と日本経済に大きな影響を及ぼしております。

富士フィルムグループは、震災発生以降、自社生産、営業拠点の早期再開はもとより、お客様、地域官民の皆様への様々な機材、サービスなどの提供を通じ、全社をあげて復旧、復興に向けた支援活動に取り組んでまいりました。特に、「写真救済プロジェクト」には多くの従業員がボランティアで参加し、海水や泥で汚れた写真プリントの救済活動を行いました。写真は、撮った人、写っている人、一人ひとりにとってかけがえのない存在であり、この活動によって「写真」の持つ意味や価値を改めて見つめなおす契機にもなりました。

また、福島原発から約21kmの距離に位置する富士フィルムファインケミカルズ広野工場では、緊急時避難準備地域指定解除後、当社グループの持つ放射線に関する知見、技術を活用し、徹底した除染活動を進め、昨年10月にいち早く再稼動いたしました。併せて、広野町に対し除染作業指導、各種資機材の提供を行うなど、地域に密着した支援活動を行ってきました。

これらの活動は、従業員の自発的・自主的な取り組みが基点となっており、我々の持つ知見や技術を世の中に役立てていくという従業員一人ひとりの思いが、結集した証であると考えております。そして、こうした熱い思いが富士フィルムグループの力の源だと思っております。

### 改革は、いまだOn the way 強い現場で確実な成長軌道にのせる

一方、日本経済が震災復興や不安定な政治状況の下で、足踏みをしている間にも、世界では、次の時代に向けた奔流が渦巻いております。デジタル化のさらなる進展、新興

国の顕著な躍進、「アラブの春」に見られる旧体制の崩壊と混乱、欧州経済危機など、一歩、見通しを誤れば、奔流に流され沈んでしまう環境にあります。

当社グループも2000年以降のデジタル化により、「銀塩写真」というコアビジネスが急激に縮小するという危機に直面しました。この荒波に立ち向かうため、我々は、自社の持つ技術力などのポテンシャルを徹底的に見極め、今後成長が見込める6事業分野への大胆な構造改革を強力に推し進め、企業体質をダイナミックに転換してきました。しかし、未だ万全とはいえません。この混乱の時代に、成長戦略を確実なものにしていくためには、生産、販売、研究・開発、間接部門それぞれの現場にいる従業員一人ひとりが己の持つ力をフルに発揮し、力を合わせていかなければなりません。時代の変化を見据え、変化を先取りした戦略とそれを実行する強い現場があつてこそ、確実な成長軌道にのせていくことができるのです。

### 強い意志、団結力で目標を成し遂げる

現在、当社グループは、2014年1月に迎える創立80周年に向けて、中期経営計画「VISION80」を策定し、「重点事業の成長戦略の推進」と「グローバル展開の加速」に全社一丸となって取り組んでいます。

ヘルスケア分野では、写真フィルムで培ったナノ技術や有機合成技術、解析・評価技術などの独自技術を基盤に、「診断」から、「予防」「治療」領域へ事業拡大させ、各領域でのM&Aや他社との協業も積極的に行っております。

高機能材料分野では、フラットパネルディスプレイ、太陽電池、半導体などの市場に対し、当社グループの技術を活かした特長ある材料を提供することで、成長産業の発展に寄与してまいります。

ドキュメント事業分野では、より良いコミュニケーション環境構築へのさらなる貢献を目指し、ソリューションサービス提案型事業への転換を加速させています。また、中国やアジア・パシフィック市場においては、地元行政や市民セ

クターと連携しながら現地課題に配慮した事業運営を通じて、市場の開拓と販売量拡大にチャレンジしております。

グローバル展開に関しては、アジア、中東、アフリカ等での販売ネットワークの強化を進めております。

これらの目標は、どれ一つ容易なものはありませんが、先の震災時に示された「困難に立ち向かう強い意志」「自己の領分を越えて互いに助け合う団結力」「課題を明確にしたときの粘り強い解決力」があれば、必ずや成し遂げられると考えています。

### 「What to do」 社会と企業の持続的な発展に向けた新しい 価値の創造こそ、我々のなすべきDoである

今年は、「持続可能な開発」がうたわれた国連環境開発会議（地球サミット）から20年の節目にあたり、環境や貧困など地球規模の課題と取り組みについて世界が歩調を合わせることを目的とした「国連持続可能な開発会議（リオ+20）」が開催されました。この20年の間に地球は持続可能な世界に向かってきたといえるでしょうか。各国政府、企業、市民それぞれが努力を継続しているものの、気候変動、資源・エネルギーの枯渇、途上国の貧困等、解決しなければならない課題は山積みです。

未来に責任のある者として、これらの課題解決への挑戦に立ち止まることは許されません。人々の健康や豊かな暮らし、持続可能な社会の実現に向かって、真に社会が求めることを自ら考え、絶えずイノベーションを起こしていくことが必要です。未来に向かって、自ら変化を起こし、新しい価値を提供し続けていくこと、このことこそがゴーイングコンサーン（持続する企業）につながる道なのです。

今年6月、当社は、新たな経営体制をスタートさせました。社会と企業の持続的な発展を目指し、新しい価値を創造し続けることが、我々のなすべきDoであるとし、新経営体制の下、時代の先に目を凝らし、弛まざる自己革新とイノベーションへの挑戦を続けてまいります。



2012年8月  
代表取締役会長・CEO

古森重隆

「富士フィルムホールディングス サステナビリティレポート2012」は、企業活動の3つの側面のうち、環境面、社会面を中心にステークホルダーと富士フィルムグループ双方にとって、重要性の高い情報を選択して掲載しています。経済面を中心とした報告は、当社ウェブサイトのIR情報、並びにアニュアルレポートをご参照ください。

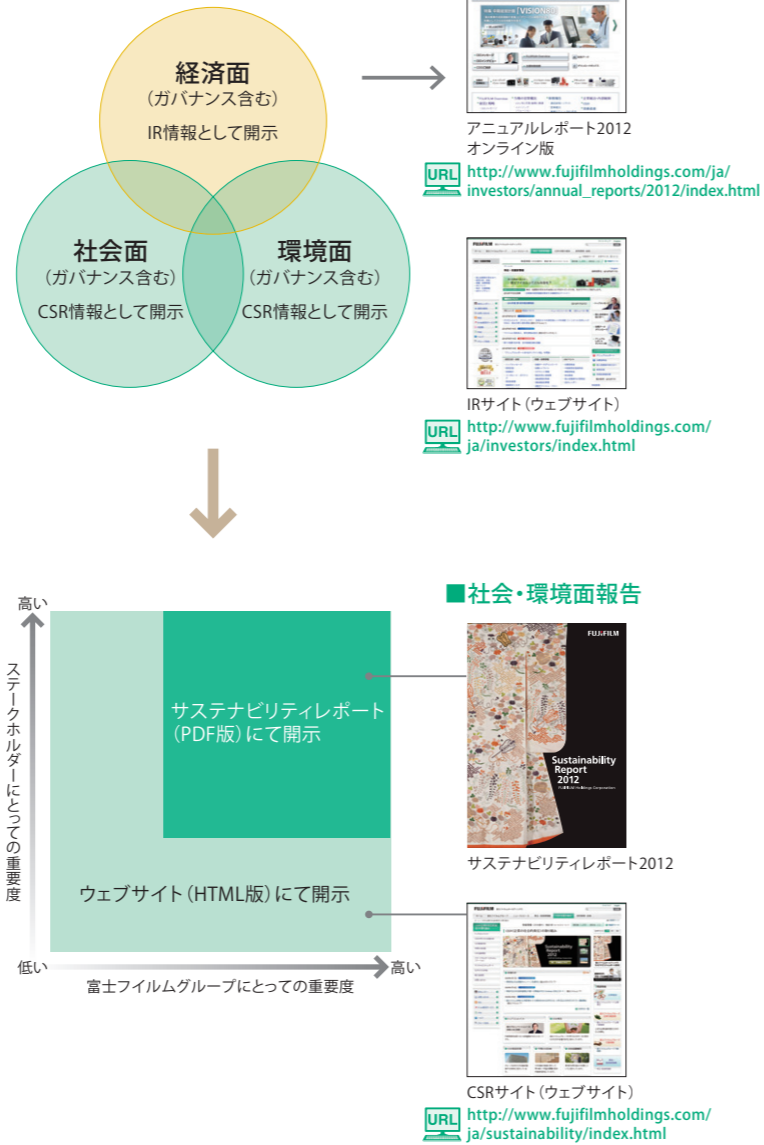
本年度のレポートは「事業を通じた価値提供」「グローバル」「総合力」をキーワードに、「特集 技術の力で、グローバル課題に挑む」、「CSR活動報告」「資料・データ」の3部構成で編集しました。「特集」では、事業を通じて価値提供している活動のトピックスを掲載、ステークホルダーのどなたでもお読みいただけるよう、専門用語は極力少なくしました。「CSR活動報告」は中期CSR計画とCSR課題の年次報告とし、「資料・データ」では、ステークホルダーの皆様へ、私たちのCSR活動を客観的かつ具体的にご理解いただけるよう、定量情報を中心に可能な限り網羅的に掲載しました。

また、昨年より、専門家やステークホルダーの方々から、レポートを通じて当社グループのCSR活動に対する客観的なご意見をいただき、レポート上に掲載し、そのご意見を踏まえて活動を見直しています。本年も、レポートを通じ、専門家やステークホルダーの皆様のご意見を拝聴することとし、さらに、いただいたご意見を受け、今後の活動にどのように生かしていくかについても掲載し、当社グループの意思を伝えられるようにしました。

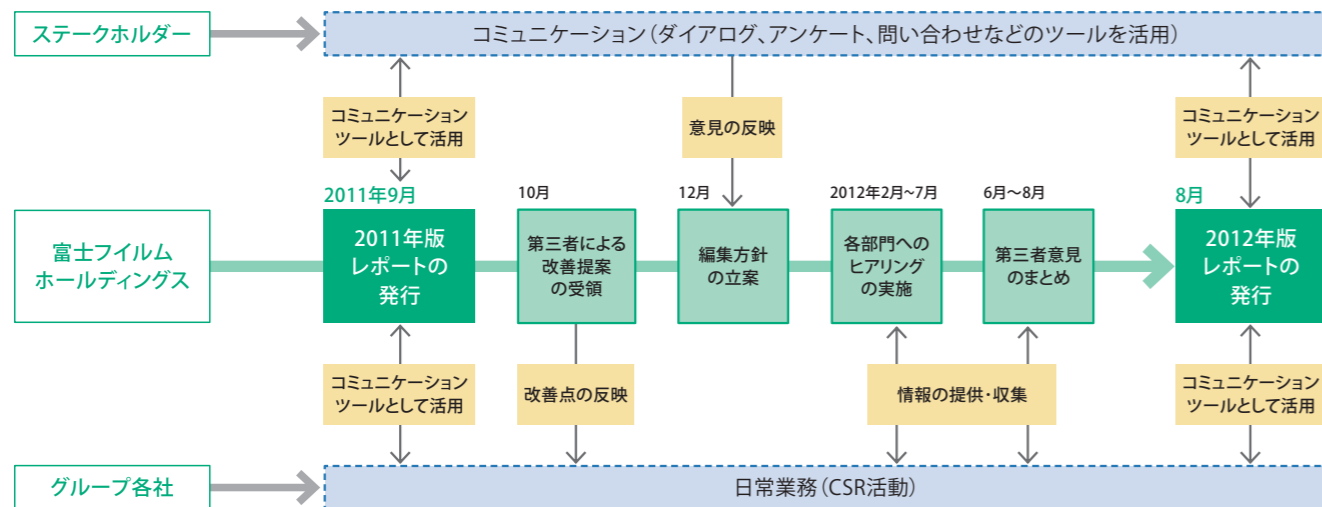
当社ウェブサイト内「CSRの取り組み」でも、本レポートの掲載内容を確認することができ、PDF版もダウンロードすることが可能です。併せてご覧ください。

ウェブサイトは下記のアドレスでアクセスできます。

<http://www.fujifilmholdings.com/ja/sustainability/index.html>



レポートの作成過程



CONTENTS

トップコミットメント	02	富士フィルムグループの事業とCSR	06
編集方針	04	富士フィルムグループ企業理念／富士フィルムグループビジョン／富士フィルムグループ企業行動憲章	06

特集 技術の力で、グローバル課題に挑む 08

Part1	10	Part3	16
世界各国の課題に応え、 医療の発展に貢献		環境イノベーションで、 CO <sub>2</sub> 排出量30%削減へ挑戦	
Part2	14	Part4	20
多角的なアプローチで、 アンメット・メディカル・ニーズに挑む		太陽エネルギーの効率的な利用を、 フィルム技術でサポート	

CSR活動報告 23 資料・データ 59

富士フィルムグループ中期CSR計画	24	コンプライアンス・リスクマネジメントに関する情報	60
コンプライアンス／リスクマネジメントの質的向上	28	お客様／取引先に関する情報	61
コーポレート・ガバナンス	30	人事・労務に関する情報(富士フィルム)	62
富士フィルムグループの環境負荷の全体像	32	人事・労務に関する情報(富士ゼロックス)	63
地球温暖化対策の推進	34	環境側面に関する情報	64
環境配慮設計	38	サステナビリティ会計(労働環境・社会会計、環境会計)	68
資源の有効利用	41	社外からの評価	70
生物多様性の保全	42	第三者意見	71
化学物質管理のレベルアップ	44	富士フィルムグループの事業概要	72
多様な人材の活用と育成	46	富士フィルムグループの組織概要	73
労働安全衛生	49		
本業と社会貢献の連動	50		
ステークホルダー・コミュニケーションの充実	54		
コラム1 深刻な電力不足に対応した使用電力削減策	57		
コラム2 東日本大震災の復旧・復興に向けた支援活動	58		

- レポートの報告対象期間  
パフォーマンスデータの集計期間は、2011年度(2011年4月~2012年3月)です。活動内容は2012年度も含め、できるだけ最新の動向をお伝えしています。
- レポートの報告対象組織  
富士フィルムグループ(富士フィルムホールディングス、富士フィルムとその関係会社、富士ゼロックスとその関係会社、富山化学工業、富士フィルムビジネスエクスパート)  
◎連結対象会社は、P73と下記URLに記載しています。  
<http://www.fujifilmholdings.com/ja/business/group/index.html>  
◎人事・労務関連の定量情報は、富士フィルム単体・富士ゼロックス単体のデータです。  
◎「労働環境・社会会計」は、P68に集計範囲を記載しています。「環境会計」は、P68に集計範囲を記載しています。  
◎環境側面に関する集計範囲はP65に記載しています。
- 発行時期  
2012年8月(次回:2013年8月予定、前回:2011年9月)
- 参考にしたガイドライン  
◎環境省「環境報告ガイドライン(2012年版)」  
◎GRIF「サステナビリティ・レポート・ガイドライン2006」  
◎環境省「環境会計ガイドライン(2005年版)」  
◎ISO26000「社会的責任に関する手引」
- レポートの記載に関する補足  
◎「従業員」という表記は、管理職、一般社員、パートなどを含まずすべての従業員を指します。「社員」という記載は、正社員を指します。また、報告の正確さを期するため、正社員と非正社員(臨時従業員、パートなど)という記載が必要な箇所に使用しています。  
◎事業会社である富士ゼロックスにおいては、別途「サステナビリティレポート」を発行しています。富士ゼロックスの活動詳細は、そちらも併せてご覧ください。

[GRIガイドライン(G3) 対照表]

<http://www.fujifilmholdings.com/ja/sustainability/report/guideline/index.html>

# 富士フイルムグループは、先進・独自の技術をもって 人々の健康や心豊かな生活、持続可能な社会の実現に 貢献していきます

富士フイルムグループは、「世界中の人々が、物質面だけではなく精神面の豊かさや、充実感、満足感を持ちながら人生を過ごしていける」社会の実現に大きく寄与することを使命ととらえ、企業理念を定めました。事業を通じて社会の要請・期待に応えていくこと、それが企業の社会的責任（CSR）の実践であると考えています。

## 企業活動を営むための 5つの原則

### 【企業行動憲章】

#### 1. 信頼される企業であり続けるために

社会的に有用な最高品質の商品・サービスを、先進・独自の技術、安全性への十分な配慮をもって開発、提供する。オープン、フェア、クリアな企業風土のもと、適正な競争、取引を行うとともに、新たな価値を創造し、お客さまをはじめとするステークホルダーの満足と信頼を獲得し続ける。

#### 2. 社会への責任を果たすために

お客さま、地域の方々、株主など社会のさまざまな方とのコミュニケーションを取り、企業情報を適切かつ公正に開示するとともに、法令をはじめとする各種ルールを守り、公序良俗に反しない。また「良き企業市民」として地域の文化・慣習を正しく理解し敬意を払うとともに、地域発展への貢献をはじめ積極的に社会貢献活動を行う。

#### 3. あらゆる人権を尊重するために

国際的に宣言された基本的人権及び労働基本権を尊重・擁護する。また、いかなる強制労働や児童労働も排除する。

#### 4. 地球環境を守るために

環境問題への取り組みは企業の社会的存在と活動に必須の要件であることを認識し、自主的、積極的に行動する。

#### 5. 社員が生き生きと働くために

従業員一人ひとりの能力開発に努め、安全で働きやすい環境を確保するとともに、従業員の多様性、人格、個性を尊重する。

富士フイルムグループ企業行動憲章(全文)  
<http://www.fujifilmholdings.com/ja/about/philosophy/conduct/index.html>

## 富士フイルムグループが 目指す姿

### 【ビジョン】

オープン、フェア、クリアな企業風土と先進・独自の技術の下、勇気ある挑戦により、新たな商品を開発し、新たな価値を創造するリーディングカンパニーであり続ける。

富士フイルムグループビジョン(全文)  
<http://www.fujifilmholdings.com/ja/about/philosophy/index.html>

## 富士フイルムグループの 不変の価値観

### 【企業理念】

わたしたちは、先進・独自の技術をもって、最高品質の商品やサービスを提供する事により、社会の文化・科学・技術・産業の発展、健康増進、環境保持に貢献し、人々のクオリティ オブ ライフのさらなる向上に寄与します。

わたしたちは、先進技術・独自技術の融合、差別化技術の創出により、新たな価値を創造し、お客さまに満足と信頼をいただける最高品質の商品、サービスを提供し続けていきます。

そして、それによって、従来規定してきた『映像と情報』の範囲を超え、社会の文化・科学・技術・産業の発展、さらに、人々の健康や地球環境の保持にも貢献していきます。

その継続的な企業活動が、「世界中の人々が、物質面だけではなく精神面の豊かさや、充実感、満足感を持ちながら人生を過ごしていける」社会の実現に大きく寄与することを使命ととらえ、新たな企業理念を定めています。

## 企業理念を具現化するための事業展開

### 【6つの重点事業分野】

#### Imaging Solution

##### デジタル イメージング

写真・映像を通じて、感動や思い出づくりをサポート

電子映像(デジタルカメラ)  
フォトイメージング(写真フィルム、フォトブック、現像・プリント)



#### Information Solution

##### ヘルスケア

「予防・診断・治療」のトータルな側面から健康を支援

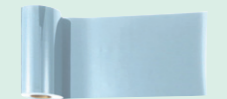
メディカルシステム(デジタルX線画像診断システム、電子内視鏡、他)  
医薬品(低分子医薬品、バイオ医薬品)  
ライフサイエンス(機能性化粧品、サプリメント)



##### 高機能 材料

先端技術で利便性・安全性を高める高付加価値製品を創出

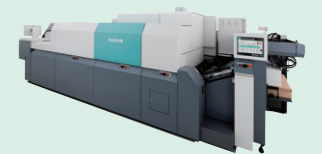
フラットパネルディスプレイ材料(液晶ディスプレイ用のフィルム材料)  
産業機材(半導体プロセス材料、電子材料)



##### グラフィック システム

デジタル化、環境対応にこたえる印刷技術を提案

印刷用機器・材料(CTPプレート)  
産業用インクジェットプリンター・インク



##### 光学 デバイス

多様なレンズ技術で高画質時代をリード

光学デバイス(カメラ付携帯電話用レンズユニット、  
テレビカメラ用レンズ・シネレンズ、セキュリティ用レンズ)



#### Document Solution

##### ドキュメント

「知」と「知」をつなぎ、新しい価値を創造できる環境を構築

オフィスプロダクト・オフィスプリンター  
プロダクションサービス(デジタル印刷システム)  
グローバルサービス(ドキュメントや業務プロセス  
改善を通じたソリューション提供)

